

木彫による造形研究 2010

岩井 義尚 *Yoshinao Iwai*
(美術学部)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素」「そのものが創り出す空間」を使い構成している。



岩井義尚木彫展 2010

2010.9.5 ~ 9.14

名古屋芸術大学アートスペース T.A.G.IZUTO (名古屋市)

テーマ: 「動き」「流れ」

作品における一つの方向は、テーマからイメージし、形の根源を動物・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材(木)を彫ることにより形(Form)を創り出す手法で具現化した立体とレリーフ、もう一つの方向は、木材の持つ存在感・力強さ・素材感を活かし形を彫り出したモノの複数を組合わせて表現したレリーフがある。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、空間を演出表現している。



Form 1001
H170 × W85 × D70
樟 (クス) + 樺 (ナラ)

この作品は、樺 (ナラ) の塊、それと樟 (クス) の枝分かれした天然木の形を生かし、枝の方向や量を見てチェーンソーを使い、面方向で作り出した 3 個の部分を組み合わせたもので、生命の力強さを表現した。



Form 1010 「遊 No.6」

H111 × W75 × D17

樟 (クス)

この「Form 1010」と、次ページの「Form 1008」「Form 1009」の「遊」シリーズ3点は、2009年度制作作品と同様に、子供達の遊ぶ姿の動きのある形を組み合わせ、「流れ」「躍動」を表現した作品である。

3点共に樟(クス)の原木を使用している。

※立体作品の原木は、名古屋芸術大学がある北名古屋市米野にある神社(公民館を建てるために伐採された)の木を使用している。



Form 1009 [遊 No.5]
H143 × W44 × D51
樟 (クス)



Form 1008 [遊 No.4]
H118 × W59 × D2
樟 (クス)





Form 1002
H67 × W21 × D5
サクラ+ケヤキ+チーク



Form 1003
H46.5 × W21.5 × D4.5
A.B.W. +ケヤキ+チーク



Form 1004
H61 × W22 × D5
クリ+ケヤキ+チーク



Form 1005
H66.5 × W19.5 × D3.5
ケヤキ+ A.B.W. +チーク

Form 1002 ~ 1005 は、四角形や辺のある板材（ケヤキ、クリ、サクラ、A.B.W.）に、人の形を基に切り出したケヤキとチークの二種類の板状の木を組み合わせ、「表・裏」「実・虚」・・・対比する二面性をレリーフ状で表現した。

A.B.W. = アメリカン ブラック ウォールナット



Form 1006
H33 × W37.5 × D25
櫻（ケヤキ）

Form 1006 と Form 1012 は、抽象化した人の形をケヤキの木の一木造りで彫り、設置方法を片方を浮かせてバランスを取り、「流れ」のある形を表現した。

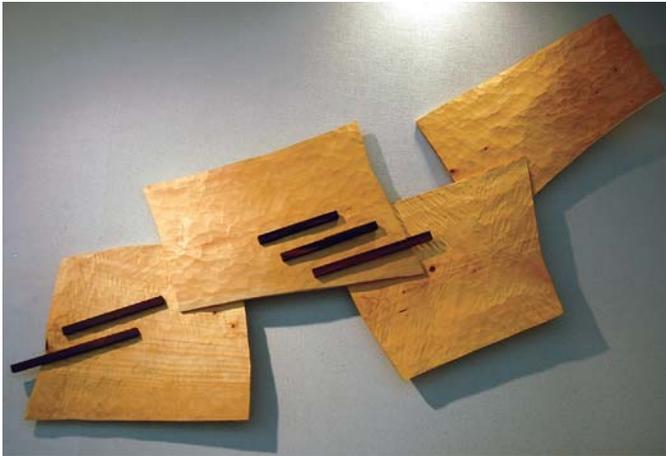
Form 1007 は、木目の美しいケヤキの木を使い、ひょうたんの片側をスプーン状に抉った形で、「やわらかさ」を表現した。



Form 1012
H35 × W38 × D19.5
櫻（ケヤキ）

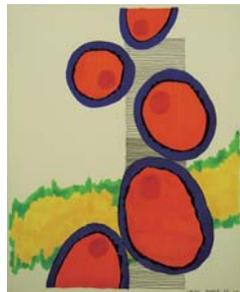
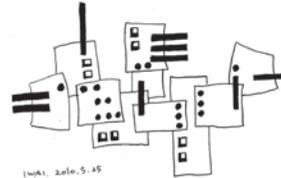


Form 1007
H36.5 × W25 × D22
櫻（ケヤキ）



Form 1014
H60 × W140 × D5
檜 (ヒノキ) + 紫檀 (シタン)

この Form 1014 は、下のアイデアスケッチを素に、4 枚の檜の板を極浅丸の突きノミで彫り出してカーブさせた板を繋ぎ合わせ、5 本の紫檀の角棒を組み合わせ、「流れ」を表現した。



Form 1011
H79 × W26 × D4
キハダ

Form 1011 は、キハダの 4cm 厚の板を使用し、豆の様な形の単体 8 個と、四角形の枠を動きのある組み合わせで彫り出し、「流れ」を表現した。



Form 1013
H109 × W42 × D57
クス

ペン画
にじみのある画仙紙に、茶と黒の万年筆（漫画用のインク入り）を使い、人の形を組み合わせ家族を表現したものと、水彩紙に水性で乾くと耐水性になるペンに色付けをコピック（油性の色マジック）を使って「動き」を表現した。